

曾於管内初の EHDV-6 発生事例

曾於家畜保健衛生所，¹⁾農林水産省動物衛生課
○新田優里香，伊藤葉子¹⁾，大塚康裕，伊藤憲

【緒言】流行性出血病ウイルス（EHDV）血清型 6（以下，EHDV-6）は牛にイバラキ病様症状を引き起こすことが知られており，今回，管内 3 農場において本病の発生が確認されたため，その発生の概要等を報告するとともに，初発の 1 農場においては本病を媒介するとされるヌカカを経時的に採取したため，その結果を報告する。

【発生概要】①初発農場は，黒毛和種母牛 15 頭を飼養する繁殖農場であり，2024 年 9 月に母牛 1 頭（37 か月齢）で発熱，食欲低下，嚥下障害，流涎等を認めた。当該牛 1 頭と同居母牛 5 頭において遺伝子検査を実施したところ，当該牛 1 頭含む 5 頭から EHDV-6 の遺伝子が検出され，ペア血清を用いた抗体検査では全頭で EHDV-6 に対して有意な抗体価の上昇を確認した。なお，当該牛 1 頭は予後不良とされ解剖を実施したところ，病理組織学的検査において，食道筋層の横紋筋の壊死や萎縮，線維化，再生像等を認めた。② 2 例目農場は黒毛和種母牛 66 頭を飼養する繁殖農場であり，同年 10 月に母牛 1 頭（156 か月齢）で発咳，嚥下障害を確認。当該牛 1 頭と同居母牛 4 頭において遺伝子検査を実施したところ，当該牛 1 頭含む 3 頭から EHDV-6 の遺伝子が検出され，ペア血清を用いた抗体検査では当該牛 1 頭で EHDV-6 に対して有意な抗体価の上昇を確認した。なお，当該牛は加療により回復している。③ 3 例目農場は黒毛和種母牛 65 頭を飼養する繁殖農場であり，同年 12 月に母牛 1 頭（55 か月齢）で食欲低下，流涎，飲水困難を確認。当該牛 1 頭と同居母牛 4 頭において遺伝子検査を実施したところ，当該牛 1 頭含む 3 頭から EHDV-6 の遺伝子が検出され，当該牛を除くペア血清を用いた抗体検査では EHDV-6 に対して有意な抗体価の上昇は確認されなかった。なお，当該牛 1 頭は予後不良とされ解剖を実施したところ，病理組織学的検査において，食道横紋筋の硝子様変性，線維化が認められた。

【ヌカカの採取】ヌカカの飛来状況を可視化し，農場への啓発等に活用するため，初発農場において，2024 年 10 月から 2025 年 9 月にかけて計 7 回捕虫器を設置した。結果，冬にヌカカは採取されなかったものの，春から秋にかけて吸血した痕跡のあるヌカカが採取され，かつ，時期によって異なる種類のヌカカが採取された。

【防疫対応と考察】EHDV-6 は 2010 年から，沖縄県，兵庫県，長崎県，熊本県等の複数県で侵入が確認されており，2023 年に北薩地区で EHDV-6 の関与が疑われる流産事例も確認されているが，事例数が極めて少ない。そのような広く知られていない本病の発生状況等を現場に周知することは課題が多いため，発生事例の集積は重要である。なお，現在国内で広く普及しているイバラキ病ワクチンは EHDV-2 に対するもので，他の血清型に対する発症予防効果は期待できないため，「蚊・ヌカカなどの衛生害虫の対策」，「畜舎周囲の雑草の駆除」等の環境整備対策が重要であることを会議，せり前研修会，事務連絡を以て現場に周知を行った。また，特にヌカカが春から秋にかけて採取されることから，当該期間に集中的に対策を講じることが有効であることが示唆された。